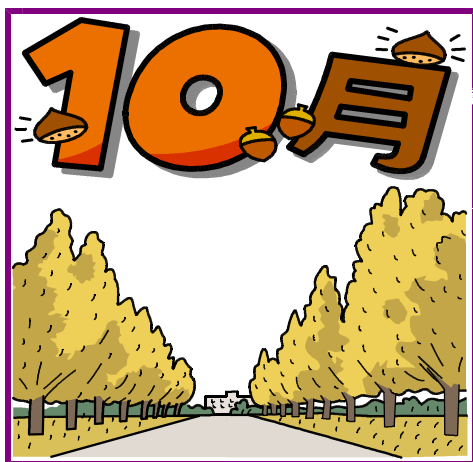


めぐみイエス・キリスト教会

2025年10月26日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第780号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌400「十字架の御許に」 p. 639

【交読文】 No.59 ヨハネの手紙第Ⅰ第4章 p. 927

【賛美Ⅱ】 新聖歌467「世の終わりのラッパ」 p. 752

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「天には救いの喜び」

【聖書朗読】 ルカの福音書11章24節～26節 (p. 138下段)

【礼拝説教】 《あなたの心は何に満たされているのか？》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所ルカの福音書11章24節～26節

11:24 「汚れた霊は人から出て行くと、水の無い地をさまよって休み場を探します。でも見つからず、『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。

11:25 帰って見ると、家は掃除されてきちんと片付いています。

11:26 そこで出かけて行って、自分よりも悪い、七つのほかの霊を連れて来て、入り込んでそこに住みつきます。そうすると、その人の最後の状態は、初めよりも悪くなるのです。」

●ポイント1. 私たちの本当の敵とは？

※エペソ人への手紙6章10節～13節「パウロの言葉から」(新約p.392)

6:10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

6:11 悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。

6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいる諸々の悪霊に対するものです。

6:13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神の全ての武具を取りなさい。

※ヘブル人への手紙1章14節「御使いとは」 (新約p.438)

1:14 御使いはみな、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされているではありませんか。

●ポイント2. ルカ11章「真夜中の訪問者」のたとえから

※ルカの福音書11章13節「主イエスの教えから」 (新約p.137)

11:13「ですから、あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っています。それならなおのこと、天の父はご自分に求める者たちに聖霊を与えて下さいます。」

●ポイント3 悪魔と悪霊の攻撃から守るには？

※エペソ人への手紙5章18節後半「パウロの教えから I」(新約p.390)

5:18 御霊に満たされなさい。

※ローマ人への手紙12章2節 「パウロの教えから II」(新約p.317)

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみ心は何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

◎先週のメッセージ【中立という立場は？】

《さて、主イエスは、口をきけなくする悪霊を追い出していました。そこにユダヤ最高法院から遣わされて来たパリサイ人や律法学者がいたのです。「悪霊どものかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と、彼らは言いました。「ベルゼベル」とは、第Ⅱ列王記の最初に登場します「バアル・ゼブブ」から派生した言葉であり、「ハエの神」という意味です。「また、ほかの者たちはイエスを試みようとして、天からのしるしを要求した」とありますが、彼らはすでに多くのしるしや奇跡を目撃しているにも関わらず、信じようとはしないのです。「どんな国でも内輪もめしたら荒れすたれ、家も内輪で争えば倒れます。あなたがたは、私がベルゼブルによって悪霊どもを追い出していると言いますが、サタンが仲間割れしたのなら、どうしてサタンの国は立ち行くことができるでしょう。」

この主の言葉から、悪魔の世界においても階級と命令系統が実在することが分かります。また、マタイの福音書において、主イエスは「強い者を縛り上げる」必要を教えています。よってまずは悪霊を縛り上げ、それから追い出すのです。

「私に味方しない者は私に敵対し、私と共に集めない者は散らしているのです」と、主が言われた言葉の意味は、地上における霊的戦いにおいて、中立の立場は存在しないということです。

つまり、誰一人傍観者ではいられないのです。電気にプラスとマイナスがあるように、真の神様と悪の根源である悪魔と悪霊が存在します。そして私たち人間は、どちらかに属することになり、どちらも属さない中立の立場はないということです。

永遠の命と永遠の滅びを選ぶのは、私たち一人一人の決断にかかっています。私たちは何があっても神様を選びます。》

◎お知らせ

※次回11月の第一主日礼拝は、11月2日午前10時からです。

